

科目名	情報社会論 Information Society						
科目担当者	本村 信一 Motomura Shinichi						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目] 他学部他学科履修○					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	<p>本科目の講義内容は、はじめに情報社会論の内容について概観し、社会情報学の切り口により情報社会で起こる様々な進化や問題点を分析・考察するものとなっている。社会情報学とは、情報の視点から人間や社会を社会科学的に解明するために、情報および情報現象を社会的文脈の中において探求する学問と定義づけられている。そのため、講義では人間社会の営みの過程に登場する情報はもとより、日々進化を続ける情報技術がもたらす様々な変化や法律・権利、問題点などを体系的に学び、社会技術として人間の生活や文化と適合したあり方を探求できる力を身に着けることが目的である。</p>						
授業の到達目標	<p>① 情報技術の発展が産業構造を変容させ、コンピュータによる機械的な処理がメディアやコミュニケーション、社会システムなどに多大な影響を及ぼしていることが理解でき、今日のAI（人工知能）やxR（仮想現実・拡張現実）、DX（デジタルトランスフォーメーション）などと密接な関わりを持っていることを説明できる。</p> <p>② 情報化や情報技術がもたらす不可能を可能にする明るい未来や、逆にデメリットとして生じる様々な問題や課題について、講義内容を理解し、情報社会や情報技術に関する文献・記事等を検索・調査でき、自分の考えを整理して報告することができる。</p>						
授業計画・内容	1	ガイダンス					
	2	社会情報学とは					
	3	歴史的観点による人類と情報の関わり					
	4	コンピュータの到来					
	5	コミュニケーション行動の変容					
	6	社会的意思決定と情報					
	7	情報と社会システムの関わり①（行政・医療・教育等）					
	8	情報と社会システムの関わり②（電子マネー・音楽・ゲーム）					
	9	情報と文化の関わり（文化のデジタル化）					
	10	情報と法律の関わり①（通信・放送・表現の自由等）					
	11	情報と法律の関わり②（個人情報保護・著作権等）					
	12	情報とセキュリティ・犯罪との関わり					
	13	最新の情報技術					
	14	未来の情報技術					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	<p>次回の授業範囲を予習し、概要等について理解しておくこと。（毎週 2 時間程度）</p>						
授業外学修 (事後学修)	<p>毎時の授業で学習した専門用語等について、復習し理解すること。（毎週 2 時間程度）</p>						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	定期試験				60%		①
	ミニテスト（授業終了前に毎回課す） レポート				20% 20%		① ②
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	オリジナル授業資料を事前に用意し、講義中にアップロード資料を閲覧する。						
参考文献							
その他							